

令和 6 年度卒業式式辞

---

六間川の桜の蕾も膨らみ始め、春の息吹が感じられる季節となりました。

この佳き日に、PTA会長の岡村弘幸様を始め、御来賓の方々そして多数の保護者の皆様をお迎えして、第73回静岡県立藤枝西高等学校卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、教職員にとりまして大きな喜びであります。

ただ今、卒業証書を授与しました百五十九名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとう。

皆さんは、入学以来、たゆまぬ努力を積み重ね、本校所定の教育課程を修了し、めでたく今日の日を迎えました。保護者の皆様におかれましても、お子様の健やかな成長を願い、支えてこられ、立派に成長された姿に感慨も一入のことと存じます。

教職員一同、心よりお慶びを申し上げます。

皆さんが過ごした西高での3年間は、新型コロナに翻弄された時期を経て、日常が戻りつつあるものの、昨今は予測が困難で不安定、不確実な状況が続いています。地球温暖化に伴う気候変動から物価高騰、少子化、急速なAI普及に伴う社会環境の変化と社会格差、そして、国家や民族間の紛争など、社会全体を覆う閉塞感が、心の余裕を奪い、SNSが原因で人を傷つけたり、傷つけられたり、と現代ならではのストレスも多くなっています。変化のスピードは、とても早く、様々な場面で、これまでのルールが当てはまらず、時に新たなルールすら定まっていな中で正しい道を模索し、歩んでいかななくてはならない混沌とした時代に入ってきています。

我々は、地球規模で物事を考え、世界の中の日本を意識しながら、正解の分かりにくい時代であることを自ら認識し、過去の経験やこれまでの常識にとらわれることなく的確に判断し、丁寧に行動していくことが求められています。

今年4月13日から大阪の夢洲で大阪万博が開催されます。万博は世界の多様な価値観が交流しあい、新たなつながりや価値の創造を促進することを目指しており、その中の一つに日本のロボット工学の第一人者が手掛けるパビリオンがあります。

その教授は、学校において、教師よりロボットの方が、よっぽど知的でミスのない評価をしてくれる、そして、高い技術と精度を備えているため、様々な場面で活躍できる、と言っています。感情をコントロールできない生身の人間が指導することで嫌な思いをするより人工知能の方がよい、とまで提唱しています。

人がロボットに支配され、ロボットにより教育される、となると、SF映画の世界のように感じますが、人工知能分野の技術開発はすさまじく、既に、そのレベルまで達している、と考えると、未来はどうなるのか、と複雑な気持ちになります。

既に、囲碁や将棋の世界において、人間は人工知能には全く歯が立ちません。教育の場に限らず、規制強化と規制緩和を繰り返しながら、様々な場面で確実に人工知能の導入は加速していくでしょうし、それを否定するものではありません。

我々は、これらの技術と共存しながら、未来を豊かにしていく必要があります。

さて本日の卒業にあたり、私が日頃より大切にしている言葉の一つを送ります。

それは『凝視無形、聴無声』という言葉です。形のないものを凝視し、声なき声を聴く、という姿勢です。今のように医療が発達していなかった時代、生命に対して日々真摯に向き合っていた産婦人科のある医師が、この言葉を常に意識して妊婦さん一人一人の診察にあたっていたことを知り、感銘を受けたことから私の心に深く刻まれた言葉となりました。今でこそ母親の胎内にいる赤ちゃんの様子は、超音波検査ですぐに確認出来ますが、当時そのような医療機器はなく、胎児の状態は、母親の様子から判断するしかありませんでした。

つまり、形のみえない胎児に対して目を凝らしてしっかりみる、そして声なき声に心と耳を傾け、推察する力が必要だったわけです。わずかなデータと情報をもとに想像力を目一杯働かせ、真摯に向き合うこの姿勢こそ、母親と胎児の命を守るために、極めて重要だったのでしょう。限られた情報を正しく理解し、分析し、想像力をフルに働かせ、最適解を導き出すことは、今も昔も変わることなく、大切なことです。

例えば、被災した地域の人々の思いを想像してください。

実際に目で見て、耳で聞いて、匂いを嗅ぐことが出来ない場所で被災された方々の背景を生々しく想像し、思いをめぐらすことで、臨場感を伴った身体感覚を磨くことができます。その地域に住む人たちがどういう生活をしていたのか、我々に何が出来るのか、その悲惨な経験を教訓としてどう生かすべきか、そこには大いに学びがあります。その人の立場に立って真剣に考えた結果、発する言葉や行動は、時に人を助けたり、さらには人の命を守ったりすることにもつながってくる、と私は信じています。

学校でいえば、皆さんが使った教室、アリーナ、グラウンド、美術室、作法室、被服室、テニスコート、弓道場、など一つ一つの場所は、皆さんだけでなく、これまで多くの先輩たちも情熱を注ぎ、汗や歓喜、また時に涙をこぼした青春の場所です。そしてその活動を支えてくださった、たくさんの人のおかげで今がある、そういった過去の場면을想像していくと、身近な環境に対してもこれまで以上に愛着が増し、自然と感謝の念が生まれてきます。

私は、今、お伝えした『凝視無形、聴無声』の姿勢を人生の指南の一つとして大切にしていますが、皆さんも、自分の確固たる信念を備えるためにも、思考の幅を広げ、学び続ける努力をしてください。これからも、本をたくさん読み、芸術に触れ、スポーツに親しみ、感性も磨きながら、混沌とした社会をすこやかに、のびやかに、そして、しなやかに、切り拓いていってほしいと切に願っています。

校訓『自律・敬愛』のうち『自律』は、人に頼る力でもある、とこれまで皆さんに、伝えてきました。高校時代の友を頼りながらも新たな出会いを大切にしてください。人を頼るには、自らが研鑽し続けることが近道です。どんな困難な場面に遭遇しても、前向きな思考で真面目に向き合う継続性をもっていれば、あなたの境遇が変わり、頼りになる人が現れたり、仲間から力をもらったり、時に与えたりしながら、これまで培った自律がさらに進化していき、道は確実に拓けていきます。

そして、余裕のない今の時代こそ、他者を敬う気持ち、『敬愛』の精神は、一層大切になるでしょう。人は不完全な生き物ですから、是非、これからも温かい心、思いやりの心を持ち、寛容な精神で、周りの人に接してください。共感できる優しさを備えることは、あなたの人生を豊かなものにしていきます。

結びにあたり、卒業生の皆さん、あらためまして御卒業おめでとうございます。

私たち教職員は、異なる路を歩む皆さんが、心身ともに健康で、前向きにチャレンジする姿勢を、いつまでも、そして、どこにいても応援しています。

保護者の皆様、本日はお子様の御卒業、誠におめでとうございます。今日まで本校にお寄せいただきました御支援、御協力に深く感謝を申し上げます。

卒業生の皆さんの前途に、幸多からんことを祈念いたしまして式辞といたします。